

# エネルギーを「自産自消」

神奈川県藤沢市のパナニック工場跡地で「Fuji Sawaサステイナブル・スマートタウン（SST）」の建設が進んでいる。



住宅だけでなく公園や街路などエリア内の至るところにソーラーパネルが設置されている

を掲げている。

屋上のソーラーパネルが初夏の日差しを浴びてきらきらと光る。JR東海道線の藤沢―辻堂駅間の沿線南側にあるSST。東京ドーム4個分（約19畝）の敷地のほぼ中央に円形の公園があり、その周りに建ち並ぶ家々はもとより、集会所などの共有施設や公共用地にもソーラーパネルが取りつけられていた。

戸建ては住宅「デベロッパ12社の建て売りで、三井不動産レジデンシャルの住宅は太陽光発電とエネファーム（東京ガスの燃料電池）を組み合わせた「ダブル発電」。パナホームは「ダブル発電」か、太陽光発電とエコキュート（ヒートポン

浦給湯機）による「オール電化」のいずれかを選択できる。各家庭にはITネットワークにつながったホーム・エネルギー・マネジメント・システム（HEMS）が導入され、電気やガス、水道の使用量がパソコンやスマートフォン、テレビ画面で確認できる。

住宅（600戸）とマンション（400戸）、商業施設や健康・福祉・教育施設などで構成。各住宅や共有施設では太陽光発電と蓄電池による「創蓄連携」のシステムを活用し、戸建てでは非常時に3日間エネルギー自給が可能（広報担当）という。第1期の入居開始は2014年。住宅は順次建設されており、現在の世帯数は約400世帯。マンションを含め20年以降の完成を目指している。

大手広告代理店に32年勤めて2013年に独立した。「エコハウス」を求めてSSTにたどり着き、翌年の第1期の販売時に購入。東京都内のマンションから家族で移り住んだ。決め手は省エネやエネルギー自給の基本設備が最初から付いていたことだと話す。マンションに住んでいたときの電気代は年間12万円前後。「現在は支払う電気代よりも売電収入の方が多い」という。さらに雨水タンクやコンポストを取り付け、庭の一角にヤマモモなどの果樹を植えて「エネルギーと水、食料の確保」に取り組み。後藤さんは「再生可能エネルギーでつくられた水素エネルギーを暮らしに取り入れるなど、今後も持続可能な社会に向けて提言していきたい」と語る。

【明珍美紀、写真も】



HEMSで電気の使用状況を確認する後藤貴昌さん

ンタルの電気自動車で玄関脇にある屋外の専用コンセントにプラグを入れて充電する。

「エコハウス」を求めてSSTにたどり着き、翌年の第1期の販売時に購入。東京都内のマンションから家族で移り住んだ。決め手は省エネやエネルギー自給の基本設備が最初から付いていたことだと話す。マンションに住んでいたときの電気代は年間12万円前後。「現在は支払う電気代よりも売電収入の方が多い」という。さらに雨水タンクやコンポストを取り付け、庭の一角にヤマモモなどの果樹を植えて「エネルギーと水、食料の確保」に取り組み。後藤さんは「再生可能エネルギーでつくられた水素エネルギーを暮らしに取り入れるなど、今後も持続可能な社会に向けて提言していきたい」と語る。